

sMedio REPORT

Vol. 8

第12期 株主通信
2018.1.1 → 2018.12.31

表紙イラストについて詳細は中面 Q.1へ

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「デジタルトランスフォーメーションを加速する。(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる)」をミッションに掲げ、社業の発展に邁進しております。

2018年12月期の業績は、売上高985百万円、営業損失107百万円、最終損失110百万円となり、売上高は3年連続の減収、最終損失は3年連続となり、株主の皆様には多大なご心配をおかけしております。

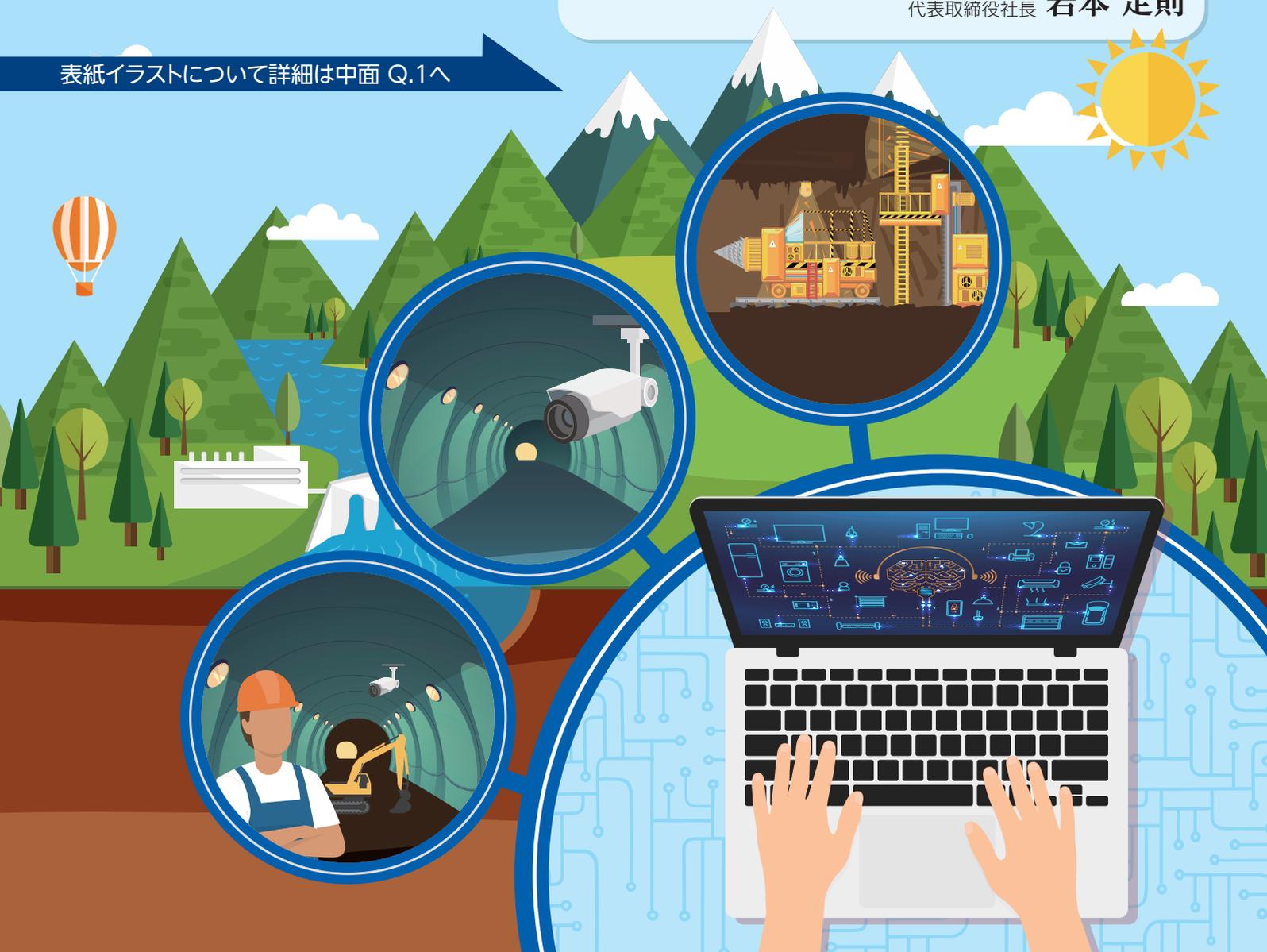
2018年12月期には、新4K/8K衛星放送対応のチューナー、レコーダー関連の開発案件で実績を挙げ、建設業界向けにAI/IoT関連の共同開発を始めると、当社が成長エンジンと考える注力分野では一定の成果が上がりましたが、従前より課題であった低迷するロイヤリティ収入のテコ入れに苦戦したことおよび想定を超える費用の発生による開発原価率の悪化・赤字案件の発生などにより、厳しい業績となりました。

2019年12月期は、新4K/8Kブラウザ関連では、新4K/8K衛星放送対応のTV関連の開発案件を成功させ、ロイヤリティ収入のテコ入れに向けた一歩とし、AI/IoT関連では建設業界向けのソリューション提供をさらに進化させ、建設業界に強いソリューションの実現を目指し、競争の激しいAI/IoT分野で存在感を発揮できるように努力してまいります。

当社グループは、顧客をはじめ、ステークホルダーの皆様と価値を共有しながら、社会から必要とされる企業グループであり続けるため、果敢に挑戦し、自らも進化を続けていきます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **岩本 定則**



About sMedio

社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに (Speed)、世界市場に向けて (Sphere)、ソフトウェア (Software) 製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

当社は2007年の設立以来、マルチメディア、無線接続技術関連ソフトウェアの開発力で高い評価を獲得しています。

近年、当社は「デジタルトランスフォーメーションの加速」をミッションとして掲げ、AI(人工知能)による映像解析、IoTプラットフォーム製品、セキュリティ関連技術に事業分野を広げ、ソフトウェアによる新たな価値の創造に取り組んでいます。

sMedio
の強み

1

Media
処理技術

2

無線通信
技術

3

著作権保護/
認証技術

4

AIによる
映像解析

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

無線接続技術関連製品を使うとこのようなことが可能になります。

リビング
ピアツーピア
ネットワーク

寝室
ホーム
ネットワーク

外出先
リモート
アクセス

このような技術の保有という強みを持っていることで無線接続技術関連製品を幅広く提供することが可能となりました。様々なシーンで当社技術や製品が使われています。

sMedioが目指すもの

技術開発力

明日をもっとコネクティブに。

インターネット化する社会。

その進化を、技術力とグローバルな展開力で加速する。

新しい魅力

お客様のために、というミッション。

そのデバイスに先進の機能を、新しい魅力を。

お客様のバリューを高める、それが私たちのバリュー。

世界へ

アジアから世界へ。

人材や技術というリソースを、

国境を越えて結集し、革新的なソフトウェアを、いち早く世界へ。

当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆様の疑問にお答えします。

放送の高度化、IoT、AI…技術

Q.1

AI/IoT事業の進展を教えてください。

A AI/IoT事業において、建設業界での共同開発を開始し、先行パートナーの獲得、製品への搭載を終え、先行パートナーへの製品出荷・機能拡張を行っている段階となっています。

建設業界に向けたAI/IoT事業は、先行製品の開発費の回収段階からライセンス収入の獲得と追加開発による収入を得る段階に進んでおります。

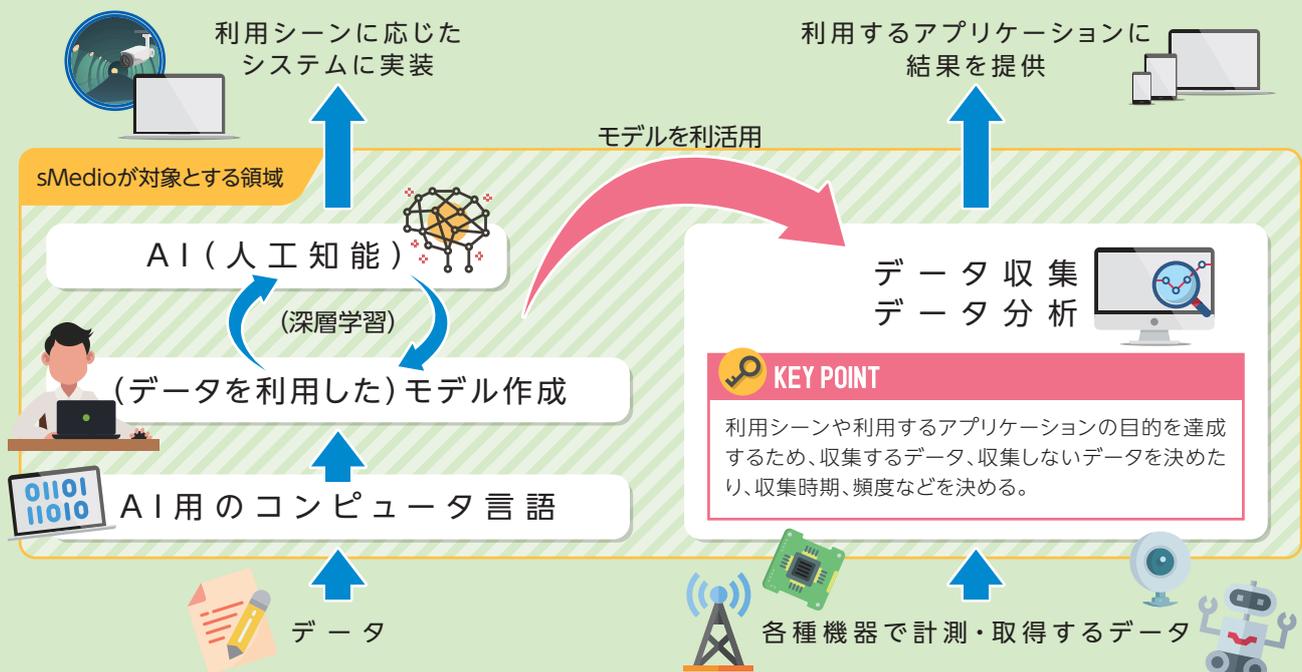
また、先行製品をベースとして、建設業界の他顧客へ、AI/IoT事業を展開させていくことを視野に入れており、案件が確定するなど、良い兆しが見られます。

2019年は、建設業界に向けたAI/IoTのソリューション提供に優先的に取り組み、2019年のAI/IoT事業での売上を、前年比約2倍となる1.1億円とする目標を掲げております。

PICK UP

当社のAI事業の技術領域

当社は、AIを活用してソリューションを提供することを目指しており、データ取得やデータ提供を目的としたAI事業ではなく、計算モデル作成やデータ分析結果の提供に力を入れております。



革新に、当社のソリューション

Q.2

新4K/8K衛星放送が始まった影響はあるのでしょうか。



2018年12月1日より新4K/8K衛星放送が開始され、各家電メーカーが新4K/8K衛星放送に対応した**チューナー**、レコーダー、**4KTV**を発売し、当社の高解像度Solutionが搭載されたチューナーおよびレコーダー製品も発売されております。

新4K/8K衛星放送を本来の高画質で楽しむには、4KTVを購入する、もしくは、いわゆる**4K対応TV**にチューナーを外付けすることが必要になり、チューナー需要は限定的なものになっております。

地上波放送は従来のTVで引き続き視聴できるため、消費者の購買動向も落ち着いており、4KTVの需要は、TVの買い替えサイクルやビッグイベントを要因として、今後、緩やかに伸びていくと思われます。

当社は、当社の高解像度Solutionが搭載されたレコーダー製品のラインナップが拡充されるのを待ちつつ、今後の4KTVの需要を取り込むため、4KTVへの当社の高解像度Solutionの採用に注力していきます。

PICK UP

新4K/8K対応TVが主戦場

2018年には、当社の高解像度solutionを採用した4K/8K対応のチューナー、レコーダーが市販されましたが、TVは未発売でした。チューナー需要は限定的であり、本丸の4K/8KTVの需要は、今後、顕在化してくるものと思われます。当社がその需要を捉えるためには、当社の高解像度solutionが4K/8KTVに採用されることが必須となり、その採用状況が、今後の業績にも大きな影響を与えます。

販売されている家電

TV
(4K/8K対応)

チューナー
(4K/8K対応)

レコーダー
(4K/8K対応)



チューナーを買うまでではないけど、4K/8Kの放送が見たくなったら、買おうかな。

TV
(4K/8K対応)



買い替える時期には、せっかくなので、4K/8KTVを買うかも。

(製品ラインナップが拡充)



会社

2019年は4K/8KTV向けの高解像度solution展開に注力。4K/8Kの高解像度を必要とするのは、TVに限定されないの、他市場も・・・。

モニターや電子掲示板、プロジェクターにもより高解像度が求められそう。

2019年

2020年

新4K/8K衛星放送開始



用語解説

- チューナー** …… テレビ放送を受信するための機器であり、4K放送波の受信機を内蔵していないTVに、4K放送波を受信させる機器のこと。
- 4KTV** …… フルハイビジョンTVより4倍きめ細かい映像を表示できるTVで、4K放送波の受信機を内蔵している。
- 4K対応TV** …… フルハイビジョンTVより4倍きめ細かい映像を表示できるTVであるが、4K放送波の受信機を内蔵していない。
- 株式報酬制度** …… 報酬を金銭で受け取るのではなく、報酬の全部または一部を自社の株式で受け取る形の報酬制度のこと。

が新たな価値を創出

Q.3

当社の株主構成はどのようになっているのでしょうか。

A

直近の当社の株主構成は、個人・その他が約55%となり、外国法人等が約31%となっており、前社長の保有株式の一部が2017年に実施した自己株式取得により自己名義株式に振り替わり、自己名義株式も約6%となっております。

所有株式数別によると、1万株以上を持つ株主が、発行済株式総数の50%強の株式を保有しております。

下表には示されておりませんが、役員保有株式数は、2018年12月末時点で、発行済株式総数の約3%と決して高くない状況にあります。

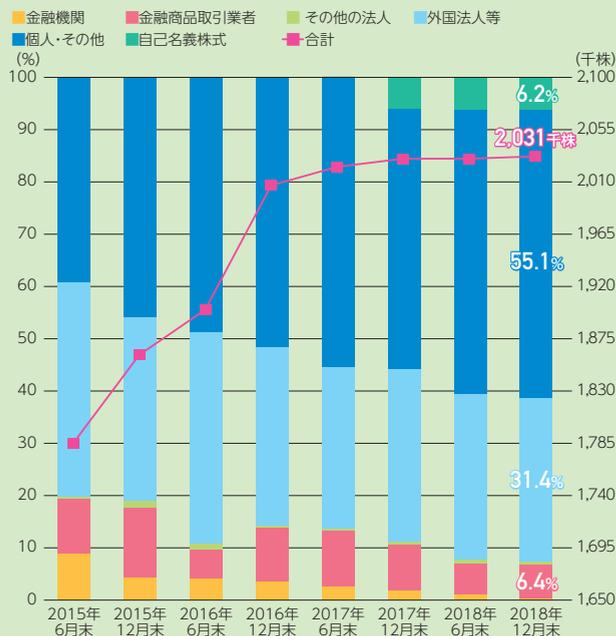
株主の皆様との価値共有をより一層進めていくには、役員保有株式数を増やすことも必要であると考え、今般、取締役報酬に、**株式報酬制度**を導入しました。

PICK UP

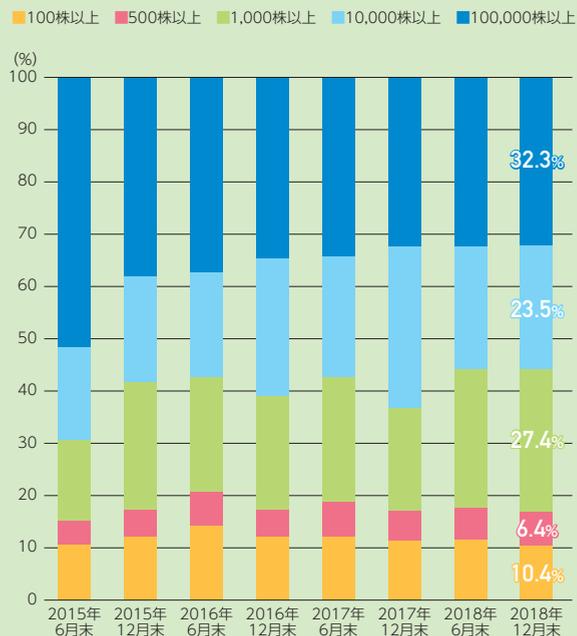
当社の株式分布状況

上場直後から直近までの当社の株式分布状況を示した下表によると、個人・その他と外国法人等の所有割合が高く、1万株以上の株式を所有する株主が占める割合が高い状況には、大きな変化は見られません。

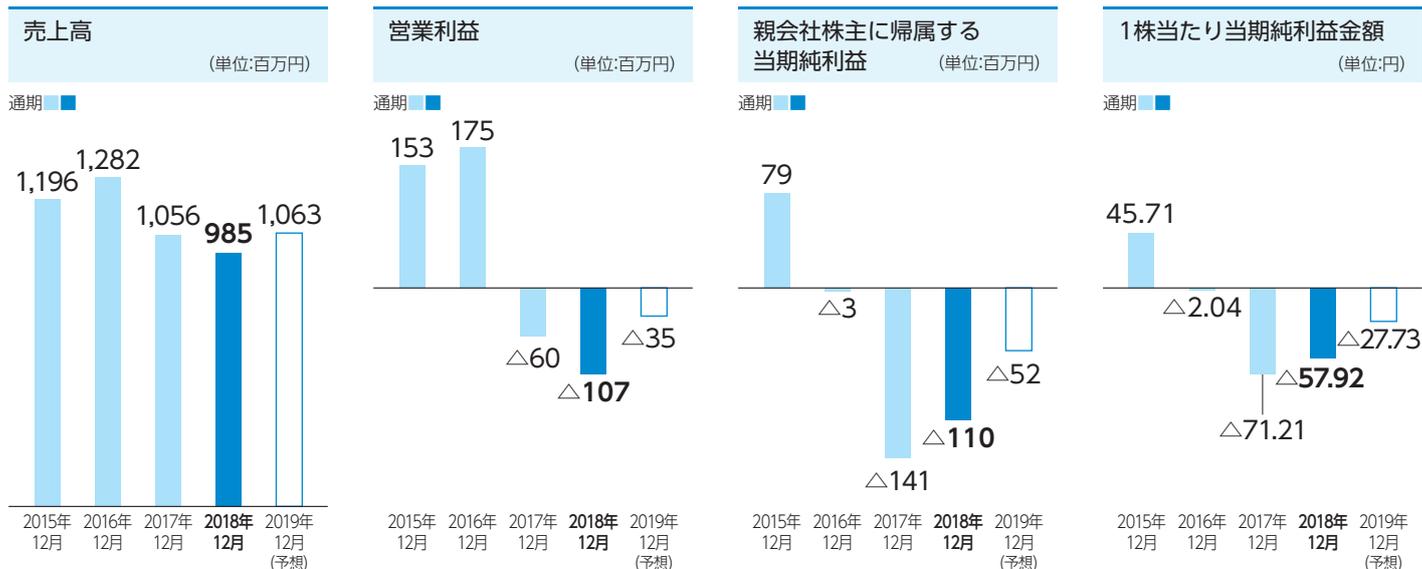
所有者別



所有株式数別



連結業績ハイライト



株主インフォメーション

会社の概要 (2019年3月28日現在)

社名	株式会社sMedio		
本社所在地	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-1 セントラルスクエア8階		
設立	2007年3月16日		
資本金	5億914万円		
従業員数	56名 (役員含まず、子会社従業員含む)		
役員	代表取締役社長	岩本 定則	
	取締役	北埜 弘剛	
	取締役 (独立社外)	落合 洋司	
	取締役 (独立社外)	林 志中	
	監査役 (常勤) (独立社外)	江藤 祐一郎	
	監査役	渡邊 雅文	
	監査役 (独立社外)	本郷 喜千	
関連子会社等	sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) 株式会社情報スペース タソフトウェア株式会社		

株式の状況 (2018年12月31日現在)

発行可能株式総数	6,000,000株
発行済株式の総数	2,031,521株 (うち自己株式 125,092株)
株主数	1,777名

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。

IRカレンダー

年	月	内容
2019年	4月	
	5月	●第1四半期決算発表
	6月	
	7月	
	8月	●第2四半期決算発表
	9月	
2020年	10月	
	11月	●第3四半期決算発表
	12月	
	1月	
2020年	2月	●決算発表
	3月	●定時株主総会

株式会社sMedio

https://www.smedio.co.jp

UD FONT



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。